

大型クラゲ分布調査

(大型クラゲ出現調査及び情報提供事業)

寺谷俊紀

1. 大型クラゲ沖合域分布調査

(1) 調査方法

2021年(令和3年)8月23日～24日および9月9日～10日に、試験船「島根丸」によりLCネット(網口の幅×高さが10m×10m)を用いた調査を行った。また、船橋上両舷から目視調査を行った。調査は図1の定点にて実施し、LCネットを水深50mまで沈め、1分間斜め曳きを行った後、巻き上げ速度毎秒0.3mで揚網した。

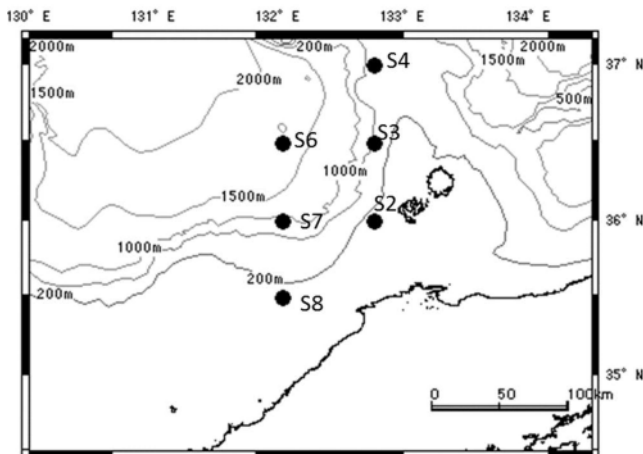


図1 洋上分布調査定点

(2) 結果

S4で3個体(傘径60～120cm)を採集した(付表1)。

2. 洋上目視調査

(1) 調査方法

7月26日～27日に試験船「島根丸」で船上から目視による調査を実施した。調査は図2の定点にて実施し、2マイルの距離を航走する間、船橋上両舷から目視されたエチゼンクラゲを大(傘径100cm以上)、中(傘径50～100cm未満)および小(傘径50cm未満)のサイズ別に計数した。また、8月～10月に漁業取締船「せいふう」の航行中にクラゲ来遊状況の目視調査を行った。

(2) 結果

試験船「島根丸」による調査では、7月26日～27日にかけて合計2個体の大型クラゲを確認した。漁業取締船「せいふう」による調査では、

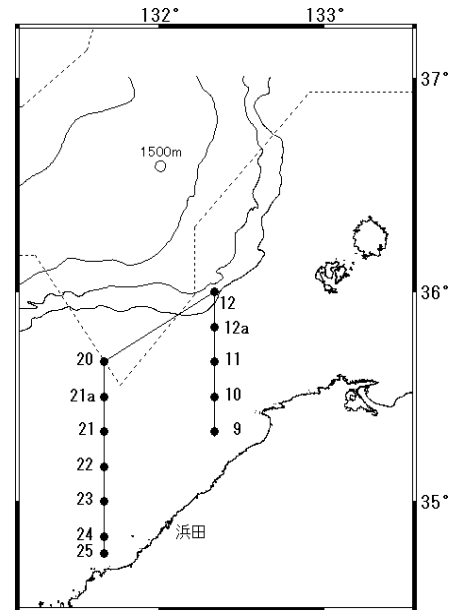


図2 島根丸洋上目視調査定点

8月中旬から10月上旬にかけて合計36個体の大型クラゲを確認した。8月下旬が最も多く、20日には6個体(小サイズ4個体、中サイズ2個体)、23日には5個体(小サイズ2個体、中サイズ3個体)、26日には2個体(小サイズ1個体、中サイズ1個体)、30日には1個体(小サイズ1個体)の大型クラゲを確認した(付表2)。

3. 陸上調査

(1) 調査方法

8月～9月の間、漁業協同組合JFしまね各支所等から電話による情報収集を行った。

(2) 結果

8月中旬～9月上旬にかけて隠岐諸島や松江市周辺海域で1日1ヶ統当たり最大2千個体の大型クラゲの入網があり、漁獲量減少などの漁業被害が発生した(付表3)。

4. 研究成果

調査結果はJAFICに提供し、大型クラゲ出現情報として活用された。また、当所ホームページや関係漁業者へのFAX送信により大型クラゲの出現状況等を情報提供した。